

1. 日時 令和5年9月27日(木) 10:00~12:00

2. 場所 本校 会議室(中高等部棟2階)

3. 出席者 <学校協議会委員>

西野 陽一(元大阪工業大学教授) 大矢 優子(摂津市教育委員会 教育委員)

佐藤 裕子(茨木・摂津障害者就業・生活支援センター所長)

中井 啓夫(高槻市柱本自治会 会長) 久保田 夏美(本校保護者)

<摂津支援学校>

校長(藤井) 教頭(和田)(竹内) 事務長(與賀田) 首席(坂部・平水)

首席兼教務部長(日高) 首席兼高等部主事(三牧) 部主事(浅井・眞壁)

指導教諭兼リーディングスタッフ(麻生)

支援グループ長兼コーディネーター(桂)

<傍聴者> 1名

4. 年間テーマ及び協議事項

「子どもたちの自己肯定感を高める教育をめざして」

主な内容 ①取り組みの進捗状況の確認と改善に向けて ②学校教育自己診断について  
③本校の不登校支援について ④質疑応答

5. 説明、質問、協議内容等

(1) はじめに [進行:三牧] [記録:平水]

・校長あいさつ

報道等でお騒がせした給食の件について、守口、吹田、摂津の3つの支援学校が今回の給食業者を利用していた。8月の終わりに調理員に届いた手紙に関する情報を学校がキャッチし、9月初めからの給食実施が難しいことが予想された。防災備蓄の非常食等の活用も考えたが、教育庁と協議し、仕出し弁当を手配してもらい、9月25日の給食再開までの約3週間を無事に過ごすことができた。

今年度も様々な取り組みを行ってきた。学校教育自己診断についても内容を精査して、質問内容や質問数を見直してきた。また全国で問題になっている不登校問題についても本校では、支援チームを作って対応しているのでご意見等をいただきたい。

・配付資料確認

(2) 学校より報告及び協議 [進行:西野会長] ※②と③の順番を入れ替え

①取り組みの進捗状況の確認と改善に向けて

校長:今年度の学校経営計の進捗状況について。

◎安心・安全の教育を進める学校について

教員の人権意識を高める為、研修を実施。人権研修は悉皆で、出張等で不参加の教員には、後日資料やビデオ等で必ず受けてもらうようにしている。

・不登校、要保護等の児童生徒については頻繁に関係機関とケース会議を持ち協議している。

・地震・津波避難訓練を9月27日に実施。階段や廊下などの安全を確認後、グラウンドへの1次避難の後、学部ごとに校舎の3、4階まで2次避難を行うので、全員が避難するのに合計約40分位かかった。また、9月30日(土)に引き渡し訓練を実施する。保護者が参加しやすくするため、今回初めて土曜日に計画した。

- ・個人情報の誤配付等は、1学期はなかった。
- ・ヒヤリハット・アクシデント事象は、授業中の教材等の誤飲が3件、プレイルームのトランポリンでの怪我が2件、また通学バスの降車間違いが1件あった。本来降りるバス停ではないバス停で降車してしまい、歩いているところをその生徒の出身小学校の先生が偶然に見つけてくださり大事には至らなかった。
- ・感染症については、しっかり対策していることで、今のところ本校では広がっていない。
- ・プール学習に関しては、6月にプール底の工事を実施した。プール掃除で水を抜いた際、底面の一部が剥がれていた。すぐに対応し、予定より少し遅れてプール学習を開始できた。
- ・給食については、今週(9月25日)より新しい業者と契約し、再開。

#### ◎「わかる授業」「よい授業」を追求する学校

- ・子ども達にわかる授業を行っていききたい。全校や各学部の教科会でカリキュラムの検討を行った。夏休みに教材展示会を行い、様々な教材の紹介や使い方などを紹介した。地域の小中学校の支援学級担当教員など、40人くらいの外部の方も参加された。また本校の教員からは、事後アンケートで100%に近い肯定的な感想も得ている。次年度も実施する予定である。
- ・GIGAスクール構想の一人一台端末の利活用については、3か年計画のアクションプランが今年度で最終年になる。教員全員がiPadやPCを活用した授業を行えるよう、自作のICT教材などを紹介しあう研修等を実施している。
- ・「自己肯定感を高める教育」として、梅花女子大学の伊丹教授による研修を実施した。

#### ◎地域で学び、地域とともに育つ学校

- ・居住地校交流は、コロナ前の実施数に戻りつつある。
- ・課外クラブ、同好会については、バスケットボール大会やID陸上などの大会に参加した。
- ・地域交流は、摂津市の「わいわいガヤガヤ祭り」で、中・高の生徒が授業で作った製品を、当日任意で集まった生徒が販売した。教育フェスティバルにも参加した。

#### ◎組織力向上

- ・分掌再編については、特に教務部、総務部、研究研修部について見直しをしていきたい。
- ・働き方改革は、18時以降の電話を自動音声案内に変更した。また、朝の欠席連絡についても10月より児童・生徒・教職員の出欠遅参連絡を電子化していく方向。  
会議資料を一部電子化して、書面での印刷を減らす。朝の職員朝礼も、できるだけ短時間で終わるようにデータ入力し、情報の共有を行っている。  
夏季休業中に「学校閉庁日」を連続で5日間設定した。また、夏季休業中に上限5回のテレワークの試行を行い、本校では30名ほどの教員が活用した。

#### ◎10年先を見越した将来構想の検討

- ・児童生徒が500人規模になった時を想定し、教育課程や施設等の検討を行っている。

委員：ヒヤリハットでの誤飲が気になる。発見の経緯や対策が知りたい。

教員：当事象は、授業中に起こったもの。「かず」の授業で個数を数える教材としてコーンパフのような物を使用していた。口に入るサイズのものであったため、ある児童が口に入れてしまった。パフが1つなくなっていること、児童の口が動いていることに気づいた教員が、すぐに吐き出させようとしたが間に合わず、飲み込んでしまった。すぐに病院を受診し、緊急的な対応はしなくても良いとの診断であった。今後は、口に入らないサイズの教材の使用や教材を扱っているときは特に、子どもたちから目を離さないということを確認した。

委員：得意、不得意な先生がいる中で iPad を使った授業を全員の先生が行うのは難しいのではないかと、授業内容に差が出来てしまうのではないかと？

教員：8月に iPad や ICT 機器を使った研修を行った。今年度3回目で、以前は苦手と感じていた教員が今回発表を行ったり、自作教材を紹介したりしている。また、同じクラスや学年に得意な教員もいるので、アドバイスなどをもらって技術向上をはかっている。

委員：先生方は日々忙しいと思うが負担ではないか？

教員：やはり ICT 教材は子ども達の反応が明らかに違うので、忙しくても技術を習得し活用したいと考える教員は多い。研修やアドバイスを通じて、教材づくりを行っている。

委員：iPad については難しい技術を駆使しなくても、様々な使い方が考えられる。地域の学校では、体育の時間に跳び箱を跳んでいるフォームを子ども達が撮影し確認しあう等の例もある。

いじめの研修を行っているが、いじめ事案は増えているのか？

教員：ここ数年は学校として認知しているいじめ事案はない。

委員：いじめの捉え方も違ってきているのでは？

教員：いじめアンケートを毎年行っているが、以前のトラウマやいじめ以外の相談事を記入するケースが多い。

委員：安心・安全の研修について。地震・津波の訓練を行っているのは良い。しかし、南海トラフ地震が起きてもこの地区には津波は来ない。それよりも水害の可能性の方が高い。100 ミリを超える雨量で大きな被害が出ると言われているので、そのことも念頭においていただきたい。

教員：以前、広島県で水害が起きた際、新築の支援学校が浸水被害にあった。本校でも備蓄品等もしっかりと確認しておきたい。また先日この地区で停電が発生し、照明やエアコンだけでなく校内放送やトイレ等使えない物がたくさんあった。停電時の対応や対策も考えていきたい。

### ③本校の不登校支援について（スライド資料を見ながら）…※協議順序②と③、入れ替え

教員：先日の新聞発表によると、不登校児童生徒は、全国的に9年連続で小3.6倍、中1.7倍増加している。摂津支援ではR4年度小・中15%、高27.1%の不登校児童生徒がいる。これは、北摂にある他の支援学校でも同じくらいの割合になっている。原因は大きく分けると・人間関係・本人の障がい・無気力や不安・生活リズムの乱れ・家庭の状況、に起因すると本校では分析しており、またどれか一つということではなく、複雑に重なっていることが多い。「本人の課題」「家庭の力」「学校の対応」の側面から、本校の現状をお伝えしたい。

#### ◎本人の課題

不登校になる児童生徒の傾向として、学習習慣が身につけにくかったり落ち着きがない、座位が取りにくい、手先が不器用でボタンやハサミがうまく使えなかったり紐が結べない、服の前後がわからず着替えられないなどがある。また自己肯定感が低い、他者の気持ちを理解しにくい、友だち関係が作りにくく、生活リズムとしては昼夜逆転などの傾向もみられる。

他に ADHD、強度行動障がい、ハイリーセンシティブパーソン、場面緘黙、起立性調節障害等の傾向がみられる場合も多い。

#### ◎家庭の力

教員：コロナ以降、保護者の仕事が変わったり、勤務時間が夜勤に変更になったりして、朝、学校に送り出せないケースが見られる。保護者と子どもとの生活リズムが異なり、食事等の準備が難しい、放課後のお迎えができない等の理由で登校させられない。また、朝は子どもの機嫌が悪く、準備（食事、着

替え等)に手間取って間に合わず、送り出せないこともある。本来は福祉に頼った方が良いと思われる状況でも、保護者が頼りたくないと思ってしまうケースもある。

### ◎学校としての対応

教員：子どもが通学バスに乗ることを嫌がったことで不登校が始まったケースでは、当初は保護者のあきらめ感もあったが、保護者には担任の励ましや福祉の介入、子どもへは担任作成のバスカードの活用等の登校支援を行ない成功した。また別のケースでは福祉の介入で訪問看護やデイサービスなどの利用が開始されたが、昼夜逆転の生活を変えることが難しく、サービス利用日のみの登校にとどまっている。学校として福祉に繋がたくても、保護者によっては家庭に入ってきてほしくない場合もあり、子どもの「教育を受ける権利」が守られない可能性があることは心配である。

他には週1日からの登校、短時間の登校など実現できそうな登校計画からの開始、家庭にしながらZoom等オンラインでの朝の会・帰りの会の参加、また登校を目標にせず、日中に通えるフリースクール等の「学校ではない居場所」の確保、など様々な支援のケースがある。

今後も、子どもを中心として最善の方法を見つけスムーズに登校できるように、福祉機関、医療機関等とも連携し「チーム学校」として対応していく。

委員：不登校の中でも、人によって欠席日数に大幅な差があると思われるが、その内訳はわかるか。

教員：把握している。地域の中学校在籍時にすでにかなりの年数の不登校生に関しては、高等部入学後も不登校になりがちである。

教員：日中一時支援施設など、学校以外の居場所が出来て、外には出られるようになったが登校には至らない生徒もいる。文科省がフリースクール的な感じでそれも出席と認めてもらえると不登校生の人数は減る。

委員：家庭に行政が介入した方がよい場合、学校としてどこまで介入できるのか？

教員：保護者が望んでいないケースがあるため、無理やり行政に連絡はできない。保護者とコミュニケーションを取りながら信頼関係を築き、相談しながら行政に繋げていける場合もある。行政から「保護者からのニーズがない」と言われて、そこでストップしてしまうケースもある。

委員：それは行政の怠慢とも受け取れる。子どもたちのために機能してほしい。

委員：子ども自身の課題としてあげられていた「不器用さ」について、高等部くらいになって手先が不器用だと様々な事が難しくなってくる。そのためには自立活動が大切。小学校段階からしっかり自立活動に取り組んでいると、改善されていく部分もある。

教員：本当にその通りだが、地域の小中学校の支援級では、学力面に目を向けがちになっていることが多い。(H29年の学習指導要領の改訂で、小中学校の支援学級でも「自立活動」を取り入れることが可能となり、支援学校のノウハウを地域の学校に広めていくことが課題となっている。)

### ②学校教育自己診断について

教員：今年度は、保護者向け、教職員向けには10月より本校で新しく導入した一斉配信メールサービスの「さくら連絡網」を活用する。昨年度使用したGoogleフォームでは、重複回答が可能なため、回答数が実際の児童生徒数より数名分多くなったが、「さくら連絡網」ならそれが防げる。登録状況や希望によっては紙面でも配付可能。また児童生徒は紙面での実施となる。

昨年より「わからない」を追加したが「判断できない」という文言も追加している。

質問項目を精査し、一部を削除、一部は別項目で文言を活用している。

・生徒指導→児童生徒理解の項目で一部活用

- ・教育相談→いじめの項目で文言を一部活用
- ・学校目標の周知→開校3年で学校目標の周知の為に設定した項目を一旦削除
- ・校長のリーダーシップ→提言シートを活用してもらうため、削除
- ・部活動→対象外の保護者や生徒が間違ってしまうことが多いため削除など

委員：さくら連絡網でも、選択して回答できるか？

教員：可能

委員：自己診断は無記名？提言シートは？

教員：自己診断は無記名だが、名前を書いてくる方もおられる。提言シートは記名欄がある。

委員：提言シートの無記名はできないのか？

教員：無記名でもできると思う。

委員：文言変更についての説明がとても分かりやすい。

以前から思っていたが、「体罰」に関して保護者・児童生徒への質問に入っていないのはなぜか？

教員：別にハラスメント調査がある。外部機関にいつでも直接連絡や通報が出来るように用紙を配付している。年間を通して活用可能で、何らかの動きが実際にあれば、その外部機関から教育庁を通じて校長へ調査が入る。これとは別に、校長に直接メールが送れる「校長Dメール」も全保護者にお知らせしている。何かあればそれを活用してもらいたい。

委員：使いづらかったら意味がないので、活用しやすいようにしてほしい。自己診断の実施時期は？

教員：10月の2週目くらいに実施予定。

### (3) まとめ (進行：三牧)

藤井：不登校支援は難しい所もある。一般校に進学しても登校できないから支援学校へというような進路指導をされているところもある。また、対応として学校だけでは難しいので様々な機関との連携が必要と感じている。卒業後の引きこもりは最も避けたいので、本校では3年前より不登校支援チームを作り対応している。今後も地域や行政等とのつながりを強化していきたい。

### (4) 事務局より連絡

三牧：次回は2月9日(金)

### 【配付資料一覧】

- ① 次第 ②-1 R5年度 学校経営計画 ②-2 R5年度 学校経営計画の進捗状況について
- ③-1 学校教育自己診断の実施について ③-2 R5年度 学校教育自己診断 診断票の改定について
- ③-3 R5年度 学校教育自己診断 横断比較 各診断表(イラスト版、生徒用、保護者用、教職員用)
- ④ 不登校の実態について